東京学芸大学附属図書館報

ISSN 0913-901X

図書館ニュース

Vol.31, No. 2(2003.1)

アントニオ・パニッツィとメリナ・メルクーリ
ー大英図書館と大英博物館を訪れてー

鷲　山　恭　彦

（一）

昨年、教員養成事情の調査のためにイギリスに行く機会があった。短い日程だったが、調査の終えた午後のわずかにできた時間を利用して、同行の馬淵貞利さんの案内で、大英図書館と大英博物館を訪れた。馬淵さんは、以前ロンドンに研究滞在したことがあり、大英図書館にもよく通ったという。読みたい本を頼むと、あの有名な円形閲覧室に書庫から探して持ってきてくれたという。

だが行ってみると事務カウンターがなくなり、様子が全く変わったのに馬淵さん自身が驚いていた。聞くと１９９８年から図書館の全体機能を別の所に建てられた新館に移したという。円形閲覧室は記念物仕様になっていて、入るとさすがに厳粛な雰囲気が漂い、書物と格闘して精神の高みへ飛翔した、幾多の先人利用者たちの精気がいまだに満ち満ちているようだ。

入口の所にこの図書室の建築を構想し指揮したアントニオ・パニッツィの彫像があり、広い座席を見渡すと、ここに通って『資本論』を執筆したマルクスが座っていた席に印がついていた。パニッツィについては、その事績が年表風の資料として掲示してある。読んでみると極めて興味深い人物であることがわかった。

目　　次

◇ アントニオ・パニッツィとメリナ・メルクーリ（鷲山恭彦）…… 1
◇ 本との出会い：一冊の本との出会い（本間久英）…… 5
◇ お役立ち情報：E-TOPIA スタート！ …… 6
◇ 電子ジャーナルについて～使ってみて分かる便利さ～ …… 8
◇ お知らせコーナー …… 9
◇ 平成 14 年度後期図書館暦（1 月～3 月）…… 12

（二）

アントニオ・パニッツィは、名前から推測されるようにイタリア人である。それがなぜ大英図書館なのか。１９世紀初頭、ナポリやピエモントで革命運動が起るなか、故郷のモデナ公国の暴政に反対したパニッツィは、カルボナリ秘密結社に入って政治活動を行い、その科で死刑の判決を受ける。スイスに逃れ、ついでイギリスに亡命。革命詩人で同じく亡命していたウゴ・フォスコロの紹介でユニヴァーシティ・カレッジでイタリア語を教えたりしていたが、１８３１年、３４歳の時にイタリア関係の文献の担当者として大英図書館に入り、後に主任図書館員となり大英図書館の基礎を築いたのだという。

ボイアルドなど散逸しかかったヨーロッパ中世叙事詩人の作品の編纂から始まって、様々な蔵書コレクションの充実、総合的な図書目録の作成、交付金の獲得、等々、従来の図書館の在り方を全面的に改革した。イギリスの出版物が１部は必ず大英図書館に収蔵される制度をつくったのもパニッツィで、これは日本の国立国会図書館にも踏襲されている。１８５２年に円形閲覧室を構想し、５年後に完成。図書館員は必ず利用者に囲まれて仕事をするものだという考えから、スタッフはみな利用者に対面できるよう円形閲覧室の入口に配置するなど、図書館を広く人々に開放した。晩年は館員に公務員老齢退職法を適用させるなどその地位の向上に努めた。

円形閲覧室と馬淵第一部人文社会系部長

外国人の、しかも施政者にとってはトゲとなるかもしれない革命家あがりの人物を採用して、実質的な館長までさせたイギリスという国はどういう国なのだろう。偏見には一生悩まされたとはいうが、その懐の深さを考えると同時に、パニッツィの精神の大きさ、人類の知の遺産への情熱、人々と連帯する心の深さも思わざるをえない。イギリスに帰化したが、終生一貫してイタリアの自由と独立のために心を砕いていたという。ガリバルディが最後にイギリスを訪問したときには一緒にウゴ・フォスコロの墓に参っている。また、ホイッグ党のグラッドストーンらとも親交をもち、グラッドストーンがイタリア革命に共感を抱き、それを支持したのもパニッツィの影響といわれる。

インターナショナリズムと大いなる構想力、そこから生まれた自由で開放的な機能空間。そう思って見ると円形閲覧室には、精神を未来に向かって大きく解き放とうとするパニッツィの気が溢れているように感じられた。

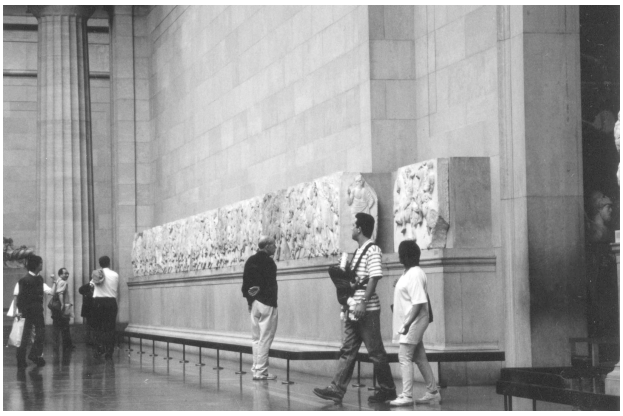
円形閲覧室を出ると、隣の大英博物館とは高いドーム屋根でつながっていて、図書館側の階段を登ると、喫茶店とレストランになっている。これは最近できたようだが、読書の後で、精神の発酵をゆったりと促すのに最適の開放感にあふれた快適空間である。我が大学でも、せめて図書館と教育実践総合センターの間にドーム屋根でも作って、けやき林と噴水に向かって開けたアカデミック・カフェーでも出来れば、などと思ってしまう。

（三）

大英博物館だが、膨大な陳列物を前にして欲をかいても始まらない。疲れてもいたので地階の一番近いところにある「エルギン・マーブルズ」に絞って見ることになった。パニッツィも整理に尽力したというアテネのパルテノン神殿の浮き彫り彫刻群である。

入ると大きな部屋の四方の壁にこのフリーズが並んで飾ってあってさすがに壮観である。「パンアテナイア大祭」という４年に１回開かれたアテナイの守護神アテーナのお祭りを祝う行列を彫ったものだという。馬に乗った騎馬兵が中心に描かれている。アテーナへの供物が入っているのであろうか、篭を持った少女のフリーズもある。広大な展示室内をゆっくりと歩き、また腰掛けたりしながら、大フリーズ群を時間をかけて眺めた。牛は犠牲の牛なのかやや悲しそうな表情がうまく出ている、よくもまあパルテノン神殿の上からこれらを剥がして持ってきたものだ、等々、鑑賞し、感想を言い合い、史実やエピソードを語り合う、楽しい時間になった。メリナ・メルクーリがこのフリーズをギリシャへ返還するようサッチャーに要求したいきさつも話題になった。

メリナ・メルクーリは、『日曜はダメよ』で、陽気で愉快でルーズだが、仲間のためにはしっかり闘う気のいい娼婦を演じて、カンヌ映画祭で主演女優賞



エルギン・マーブルズ

を取り、この映画はハジダキス作曲の軽快な主題音楽とあいまって世界的なヒットとなった。

サッチャーが鉄の女なら、女優といってもメルクーリも筋金入りで、１９６０年代にギリシャに軍事政権が出来たとき「ファシストはファシストとして生き、ファシストとして死ぬでしょう。私はギリシャ人として生き、ギリシャ人として死にます」と軍政を批判。国籍を剥脱されて亡命を余儀なくされ、執拗なテロにも狙われた。

それから２０年後の１９８１年、民主化が進んで生まれたパパンドレウ内閣の下で、メルクーリは文部科学大臣になる。「女優のあなたが文部科学大臣などやって、本当に大丈夫なんですか」という記者団の意地悪な質問に対して「三流の西部劇俳優でも、大統領をやっている国があるから、大丈夫だわよ」と切り返した。アメリカ大統領レーガンを当て擦ってのことである。パーシングミサイルのヨーロッパ配備や宇宙軍拡など当時のレーガノミックスへの批判もあったろうし、かつて俳優だった頃のレーガンが、マッカーシズムのお先棒を担ぎ、ハリウッドの映画仲間を権力に売った来歴も念頭にあったのかもしれない。

そのメルクーリが大臣就任早々にサッチャー首相に「エルギン・マーブルズ」のギリシャへの返還を求めたのである。大英博物館の至宝といわれる「エルギン・マーブルズ」も、何のことはない掠奪品である。この「エルギンの大理石群」とは、１９世紀初頭、イスタンブール駐在のイギリス大使であったエルギン伯爵がパルテノン神殿を柱を残して解体同然にして、フリーズとメトープをイギリスに持ち帰ったものである。作業が性急で打ち壊されて捨てられた部分も多く、詩人バイロンによって「神殿荒らし」と激しく批判されたものだが、これが政府に買い上げられて、大英博物館に所蔵されたのである。メルクーリによる２世紀後の返還要求を、しかし、サッチャーはまったく無視した。

後で調べてみると、メルクーリは１９８４年に来日している。東京を「エレガントな都市」と評し、日本文化への強い関心を示しつつ、件のフリーズの返還問題に触れて「イギリスの各政党は私の意見に賛成だ。サッチャーがイエスというまで交渉する」と語っている。翌８５年にメルクーリは「ヨーロッパ文化首都計画」を提案。これはヨーロッパの都市から１年間主役となる都市を選び、その都市に秘められた遺産、財産、歴史を広く発掘し公開することによって、その都市に関心を集中させ、親近感を強め、再活性化させ、異なった文化を持つ都市と人々とのより深い対話の場を作り出すことを目指したものだ。１９８０年代といえば、レーガノミックス・サッチャーイズム・中曽根行革と新自由主義イデオロギーのもとに「タカ派トリオ」が力をふるっていた時代である。サッチャーへの批判もあろう、メルクーリは明確に別の路線を対置したのである。

この新文化政策は、アテネに始まり、フィレンツェ、アムステルダム、ベルリン、グラスゴーと続き、１９９３年のマーストリヒト条約の発効によって一層促進される。個別性と多様性への敬意、ヨーロッパ市民としての自覚、祝祭都市の整備、文化観光の興隆、等々、数多くの成果を挙げ、アントワープ開催からは、ジャパン・フェストまで加わった。メルクーリは残念ながら９４年に他界し、「エルギン・マーブルズ」の返還はならなかったが、彼女の提案によって都市の新しい発掘と発見と交流の新世紀へ基礎がつくられ、２０００年記念には９都市同時開催を行い、今年はオーストリアのグラーツと着々と発展している。

合わせて３時間ほどのまさに一瞥の訪問であったが、記憶の深い建物はいろいろな想念を呼び起こしてくれる。時間がなくて残念ながらパンクラスにある新しい大英図書館には行けなかったが、文化的な財産の所有と共有、保存と活用の在り方をいろいろな意味で考えさせられた訪問だった。

（四）

帰国してしばらくして、水田徹さんから図書館に厚い小包が届いた。開けてみると、『Iconographic and stylistic Observations of the Parthenon Friezes』と題した英文の部厚い研究報告書が出てきた。何と、あのパルテノン・フリーズの図像と様式の研究ではないか。ギリシャ美術史が専門の水田さんが、本学在職

中にギリシャの現地と大英博物館に通って、フリーズの成立事情を共同調査したものである。

絵画の金子亨さん、彫刻の宮里明人さんという実作者も入った共同研究なので、構図や図柄の詳細な創作成立過程、彫刻のドリルや鑿の使われた角度まで明らかになった記録で、画期的な調査記録という定評を得たものだという。「エルギン・マーブルズ」が、そしてパルテノン神殿のフリーズが、本学とこんなに太い線で結ばれていたとは、まったく思いがけないことだった。２１世紀の冒頭を飾るにふさわしい本学の偉業のひとつといえよう。

２５００年前のアテネの大祭を描いたフリーズが、現代の我々に深い感銘を与える。「私たちは生きる、世界を我がものとするために」といったのは確かマルクスだったと思うが、芸術も「世界を我がものとする」かけがえのない仕方であることは確かである。そして更に学問によって、再度深く解明され観賞されて「我がものとする」ことができるのである。世界を獲得する仕方は多様である。図書館における読書や研究によって、旅での出会いや調査によって、国際的な教育交流や研究交流によって、等々。そして、究極の姿のひとつが水田さんたちのような成果としてあるだろう。

新たなる大交流時代を迎えた２１世紀。学生諸君も、私たち教職員も、それぞれの仕方で更に深く「世界を我がもの」とし、その成果を共有し合うことが求められている。私たちの文化的・芸術的・学問的な意欲とセンスと力量が、更にインターナショナルに開き、高まっていくことが待ち望まれていよう。

文　　献

・メリナ・メルクーリ　『ギリシャ　わが愛』合同出版　【図書館 1F 開架　778.232/MER】

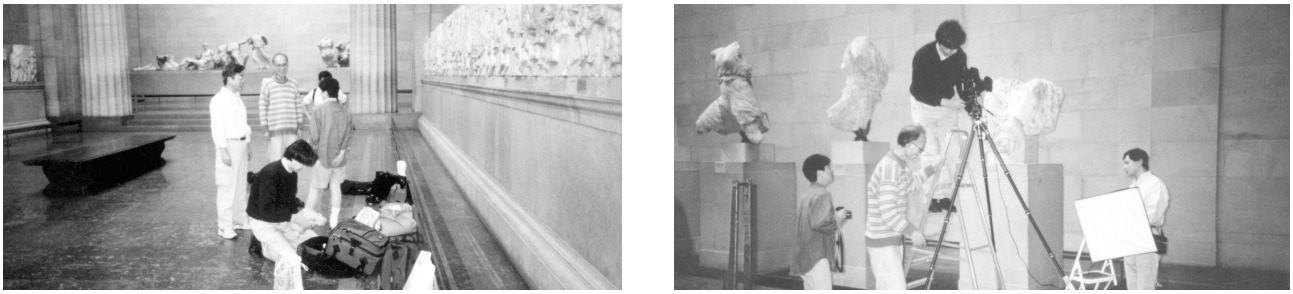
・水田徹、小林志郎、金子亨、増田金吾、宮里明人、桜井万里子ほか　『パルテノン・フリーズ図像・様式一覧ーパルテノン神殿の造営目的に関する美術歴史的実地調査ー』、英語および日本語、　ぎょうせい　【図書館 2F 本学刊行　702.31/Mi97】

・羽仁五郎　『図書館の論理』　日外アソシエーツ　【図書館書庫　010.4/H29】

＊【　】内は配架場所と請求記号

（わしやま・やすひこ　附属図書館長）

研究資料として撮影されたフリーズから



エルギン・マーブルズを調査中の水田名誉教授、金子教授たち

本との出会い

一冊の本との出会い

本　間　久　英

1971年（昭和46年）。大部古い話で恐縮である。私が博士課程に在籍していたときのことを振り返りつつその時に出会った１冊の本について述べてみようと思う。

この本との出会いは、生協の書籍棚にあったもので、タイトルに、当時の私が興味を持っていた“シリカ”と言う文字が目に入ったので買った。B6判、140ページ足らずの本なので、帰りの電車の中で気楽に読むつもりであった。電車の中で読み始めるとこれがなかなか面白く、アッという間に読み終えてしまった。しかし、読み終えてからも、どうしても気になる部分が数カ所あった。

この本、『シリカと私』（G.Alexander著、井上勝也訳、Chemistry in Action Series 1, 東京化学同人）は、著者の日常の研究生活を描いたものであるが、そのストーリー性には、まさに、当時の助手の方と院生の私との“酒の席”での話にダブルところがあり、共感を覚えながら読んだ記憶がある。本の中でもそうだが、大局的に同じようなテーマで研究している人達は、いきなり本題に入れる良さがある。アレキサンダーらのグループは、日常的に理想的にそのような研究生活をしている。ダブルと言った点はまさにそのことで、素面の時は極めて常識的な事しか言わなかった助手の方も酒の席で「どうも」と言ったとたんいつも専門の話をし、私は学問的に痛めつけられたものであった。2時間も3時間も飽きずに煙草をいつも２人で１？２箱を開けながらの議論をし、気がつけば、2升や3升をあけることもしばしばであった。

そして、最も気になった点は、珪酸イオンは酸にもアルカリにも変身しうると言うことであった。それ以前の研究者の論文でも珪酸の溶解は極めて少ないが、酸でも溶けることは報告され、理解していたつもりであるが、化学式で示され、さらにシラノール基などの構造を図示されると何か新鮮なものを感じたことを覚えている。私も当時、海水の重要性を確認するため、シリカ（ゲル）が、酸（pH=1）とアルカリ（pH=13）溶液にどのくらい溶けて、どのくらいpHが変化するものかを半年かけて見守っていた時期であった。文献のデータは殆どの場合短期間の結果であるので、遊びで始めた半年もの実験時間を費やすものは見あたらなかった。その結果、アルカリ溶液には相当量のシリカが溶け、

且つpHは9付近まで低下した。さらに、驚くことに酸性溶液にも若干の溶解は認められた。そして、pHは3付近まで上昇をしていたのである。我々の扱っている金属鉱物の多くは石英（外形のきれいなものは水晶と言う）と共生をしている。従って、金属鉱物を研究する場合は、どうしても石英の存在（性質）を無視することはできないくらいに重要な存在である。判っていたことではあるが、シリカは酒飲みにたとえれば、甘党でも辛党でなく両党使いであったことは強烈に印象つけられた本であった。

今から思えば、博士号を取得し、筑波大学そして学芸大学に勤めて、約10年に亘って、シリカの応用的な仕事をするとはその当時には考えも、思いつきもしなかった事である。そのような意味で、専門書ではない、むしろ普及書的なものであり、自画自賛するわけでもなく、成功や失敗を繰り返しながら研究に取り組む姿勢が表されており、著者の人間性にもふれる本と自分では思っている。もう、何回読み直しただろうか。学生諸君も人生に、研究にそして教育に大いに悩み考えれば、その分だけすばらしいと思える本（もしかしたら普通の本かもしれない）に出会えると思う。

（ほんま・ひさひで　図書館委員会委員・地学科教授）

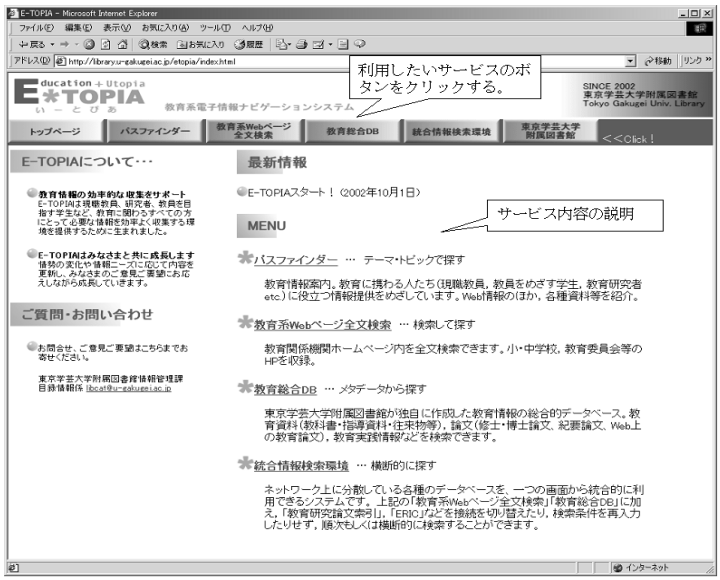
＊図書館で所蔵しています。
シリカと私 / G.B. アレクサンダー著 ; 井上勝也訳 .
東京化学同人 , 1971.6
【図書館１階開架　435.7/A41】

お役立ち情報

E-TOPIA スタート！

東京学芸大学附属図書館では，平成14年10月1日，1年間にわたり試行運用をつづけてきた「教育系電子情報ナビゲーションシステム」を，新たに“E-TOPIA"のニックネームのもと，本稼動させました。"E-TOPIA"はEducation（教育）とUtopia（理想郷） を組み合わせた名称であり，現職教員，研究者，教員を目指す学生など，教育に関わるすべての人々が，必要な情報を効率よく収集する環境を提供します。

図１ E-TOPIA トップ画面



E-TOPIA の構成

E-TOPIAの開始にあたっては，画面のデザインを一新するとともに，教育情報への総合窓口となるポータルサイトとしての機能を充実させました。

現在，次のようなサービスを提供しています。

① パスファインダー

教育情報への道案内サービス。教育関連のさまざまな情報をテーマやトピックから探すことができる。

② 教育系 Web ページ全文検索

小学校，中学校，教育委員会等のサイトを中心とした教育関係の Web ページへの全文検索システム。

③ 教育総合データベース

学内のものを中心に，教育資料（教科書・指導資料・往来物等），論文（修士・博士論文、紀要論文、Web上の教育論文），教育実践情報などをメタデータ（書誌情報）から探すことができるデータベース。

④ 統合情報検索環境

「教育系 Webページ全文検索」や「教育総合データベース」に加え，本学 OPAC や雑誌記事索引，ERIC 等を含むネットワーク上の各種のデータベースを、一つの画面から統合的に利用できるシステム。

これらのサービスを使い分けながら，さまざまな観点から教育情報を探索・収集できるのが，E-TOPIAの特徴です。このうち「パスファインダー」は，E-TOPIAの開始にあたって，新たにメニューに加わったサービスであり，教育情報源への案内サービスです。

パスファインダー

パスファインダーとは，「道しるべ」の意味で，教育関係の情報源への道案内を行うサービスです。北米の図書館等でもともとは主題別の文献ガイドのようなものをこのように呼んでいたようですが，E-TOPIAから提供するサービスとしては，インターネット上の情報源への案内を中心に，教育に関連する研究や実践を進めようとする人が，あるテーマについて理解し，関連する情報を効率的に集めることのできるスタートポイントを提供します。

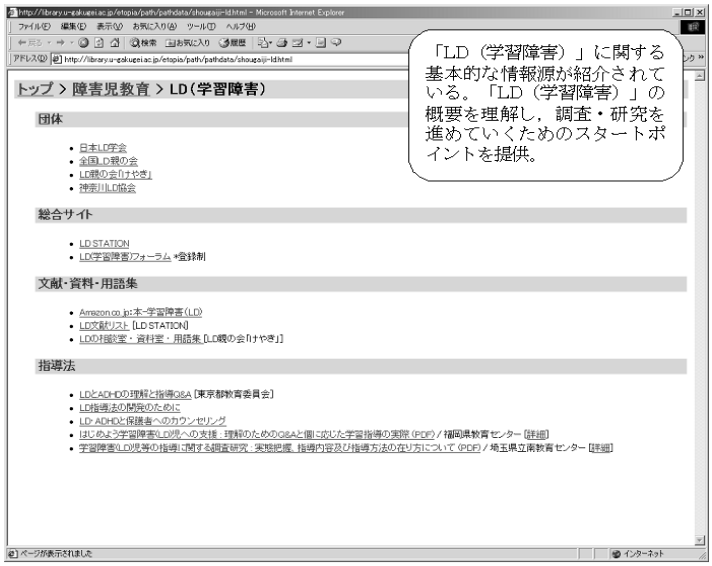
パスファインダーにおいては，膨大な情報に対して機械的に検索を行うのではなく，図書館職員が綿密な調査の上，選別した情報源を，分類・整理した上で提供します。ちょうどカウンターで行っているレファレンスサービスを Web 上で提供するようなものだといえるでしょう。

トピックは，「授業を創る」，「教育の情報化」，「障害児教育」などに大きく分類され，その中がさらに階層的に細かく分類されています。それぞれのトピックごとに，そのトピックについて理解したり，関連する情報を収集することのできる情報源がリンクされてい

ます。一見，ディレクトリ型のリンク集の様相を呈していますが，今後は印刷形態の参考文献やその分野の情報を調べるためのキーワードの紹介などを加えていき，単なるリンク集ではない丁寧でレベルの高いレファレンスサービスの提供をめざします。

今後はコンテンツをさらに充実させていくとともに，日常的にメンテナンス行い，つねに新鮮な状態に保っていきたいと考えています。

図2 パスファインダーの利用例



その他のサービス

"E-TOPIA" では，旧「教育系電子情報ナビゲーションシステム」のサービスメニューであった「教育系Webページ全文検索」,「教育総合データベース」,「統合情報検索環境」についても引き続き提供します。(*注)

「Webページ全文検索」は，自動検索ロボットが収集してきた全国の小中学校等のWebページの全文検索を行うものです。体系的な情報探索には向いていませんが，教育関係の膨大なWebページの中に埋もれているトピックをピンポイントで発見することができます。「パスファインダー」とは相補い合う関係にあるといえるでしょう。

「教育総合データベース」は，教育関係の論文や教科書・指導書などの教育資料のメタデータ（書誌情報）データベースです。本学の学位論文や紀要論文を探すことができるほか，本学が所蔵する膨大な教科書資料の検索を体系的に行うことができます(現在入力中。小学校教科書については，ほぼ入力が完了しています)。また，Web上で提供されている教育論文や指導資料なども探すことができます。

「統合情報検索環境」では，本学OPACや雑誌記事索引，ERICなどの教育関係データベースを，画面を切り換えることなく，統合的・横断的に利用することができます。

このように，"E-TOPIA" では，さまざまなタイプの教育情報に対して，多面的にアクセスできるようになっており，目的に応じて使い分けることにより，レポートや論文の作成，教育実習の準備などに役立てていただけるものと思います。

＊注

「デジタル映像情報蓄積・検索システム」については，今後は図書館ホームページから直接提供します。

おわりに

"E-TOPIA" は，図書館が積み上げてきたレファレンスのノウハウと，現職の館員による調査に基づいて作成し，提供を行っているものです。まだまだ不十分な点はあるかと思いますが，利用者の皆様のご意見・ご要望を伺いながら，維持・発展させていきたいと考えています。

研究・教育・授業実践等に必要な教育情報への玄関口（ポータル）として，広くご活用いただければ幸いです。

（村田 輝　情報管理課目録情報係長）

電子ジャーナルについて～使ってみて分かる便利さ～

杵　淵　政　明

電子ジャーナルは、これまで紙に印刷されていた学術雑誌が、電子メディアを用いて出版されたものであり、Electronic Journal、Online Journal、E-Journal、Online Magazine 等の訳語として大学図書館で定着してきている。数年前まではＣＤ－ＲＯＭ等パッケージ系メディアも用いられていたが、インターネットを通して提供する方法が主流となっており、オンライン・ジャーナルと呼ぶ人もいる。今や世界中で学術雑誌の電子化が急速に進み、電子ジャーナルは、大学の教育・研究上不可欠なものになりつつある。

○電子ジャーナルの特質

印刷物と比べて、電子ジャーナルのメリットは、速報性（印刷・製本・輸送などの工程が不要）、確実性（未着、欠号等の解消）、多様な検索機能、関連情報へのリンク機能、同時に複数の人が利用可能、配架場所の節約、研究成果の正確な伝達、自動告知機能、マルチメディア情報（音声、画像）の添付機能等が挙げられる。

一方、デメリットとして、過去の蓄積が保証されず半永久的なアクセスが期待できない、インターネットにアクセスする環境・設備が必要、時間帯によりアクセスに時間がかかる、電子ジャーナルのバックナンバー量がまだまだ少なく過去にさかのぼっての包括的な検索ができない、電子ジャーナル購読中止後バックファイルへのアクセスができない、契約の内容で利用者が限定される等がある。

○電子ジャーナルの導入に伴う問題点

学術雑誌は、発行部数の減少とのイタチゴッコで値上がりを続けている。洋雑誌は、急速に円高が進んだ時期には見えにくい面もあったが、同じ出版社から並行して発行される電子ジャーナルの価格体系は出版社ごとに異なり、多様で複雑な様相である。電子ジャーナルの普及は、冊子体購読の中止へ進むため、出版社は、大学に対して購読規模を維持することを求めてくる。これに対応して大学図書館が連携をとりながら連合体（コンソーシアム）を形成して、出版社側から有利な条件を引き出すよう努めている。

多くの大学で、外国雑誌の購入経費財源及び購読の決定権は研究室にあるが、研究室への配分予算の減少と雑誌値上げに伴って、購読の中止が大幅に増えている。図書館がコンソーシアムを形成しても、参加条件を満たす予算がないため、参加できない。

電子ジャーナルの場合、学内の端末からアクセスできるので、財源は学内の共通経費に求めるべきであるという意見もあるが、実際は各学科で購入してきた雑誌の総額をもとに電子ジャーナル価格を計算する出版社が多い。そのため、冊子体価格は学科等で負担していただき電子ジャーナルのために加算される金額を図書館予算で支払っている。この財源をどうするかということが緊急な課題である。

○本学の導入状況

平成１２年から無料の電子ジャーナル（本学で購読している雑誌の電子版に無料でアクセスできるものを含む）を利用できるように、出版社側との手続きを積極的に進めてきた。平成１４年度からは数社の出版社と電子ジャーナルの利用契約を結び、図書館のホームページから２０００タイトル以上の電子ジャーナルを利用できる。また、随時各社のトライアルに参加している。

○これから

平成１４年には、延べ７回の利用講習会を企画したが、引き続いてＰＲに努め、多くの人たちに便利さを味わってもらい、安定的な電子ジャーナル利用に向けての御支援・御協力をお願いしたい。

（きねぶち・まさあき　情報管理課長）

お知らせコーナー

本学教官寄贈図書紹介

平成13年下期～平成14年上期に本学教官より寄贈を受けた図書を紹介いたします。（敬称略、寄贈者五十音順、【　】内は配架場所と請求記号です。）

池田一成（附属特殊教育研究施設）

・SPSSによるコンジョイント分析：教育・心理・福祉分野での活用法 / 真城知己著 . 東京図書 , 2001.9 【図書館1F開架　417/Sa61】

君島和彦（地域研究室）

・日韓歴史教科書シンポジウム：歴史研究の動向と歴史教科書の記述 第3～9回 / [歴史教育研究会編]. 歴史教育研究会 , 1998.12～2002.1 【図書館2F本学刊行　375.32/R25】

・日本と韓国の歴史教科書を読む視点：先史時代から現代までの日韓関係史 / 歴史教育研究会編. 梨の木舎 , 2000.6 【図書館1F開架　210.75/A92】

・역사교과서 속의 한국과 일본 [歴史教科書のなかの韓國と日本] , 한국：역사교과서연구회 [歴史教科書研究會編] , 일본：역사교육연구회 [歴史教育研究會編]. 헤안 [ヘアン], 2000.12【図書館1F留学生用　210.18/R25】

鈴木健之（地域研究室）

・愛華2000年4月号 / 亜洲友好協会 , 2000.4 【図書館逐次刊行物】

高橋忠彦（中国語学中国文学研究室）

・日本語と辞書 第7輯 / 古辞書研究会編. 古辞書研究会 , 2002.5 【図書館2F本学刊行　813/Ko39】

西村俊一（国際教育センター）

・古代に真実を求めて：古田史学論集 第四集 / 古田史学の会編 . 明石書店 , 2001.1 【図書館1F開架　210.3/Y86】

堀江プリヤー（留学生センター）

・マイペンライ：タイ人の言語行動を特徴づける言葉とその文化的背景についての考察 その1 / 堀江インカピロム・プリヤー著, 国立国語研究所編. くろしお出版 , 1995.3 【図書館1F開架　801.09/Ko49】

・マイペンライ：タイ人の言語行動を特徴づける言葉とその文化的背景についての考察 その2 / 国立国語研究所著. くろしお出版, 2000.11 【図書館1F開架　801.09/Ko49】

鷲山恭彦（地域研究室）

・幻視の地へ：ヨーロッパ文学におけるヴィジョンの諸相 / 山影隆著 . 山影隆論文集刊行会 , 松柏社 , 2002.1 【図書館1F開架　904/Y27】

・芙蓉：山影隆先生追悼文集 / 栗原隆編 . 山影隆論文集刊行会 , 2001.12 【図書館1F開架　289.1/Y27】

・織芙杏子詩集 / 山影隆 . 山影隆論文集刊行会 , 2001.12 【図書館1F開架　911.56/Y27】

和田正人（附属教育実践総合センター）

・ひとはなぜテレビを見るのか：テレビへの接触行動モデルの構築に関する実証的研究 / 和田正人著. 近代文芸社 , 2001.11 【図書館1F開架　361.4/W12】

矢坂協子（独語学独文学研究室）

・現代スペイン語入門・カセットテープ1～4 / フェリス・ロボ [ほか] 著 , 加藤ナツ子翻訳 . 大修館書店 , 1983.4 【図書館2F視聴覚　860.7/L77】

「附属図書館メールニュース」を刊行しています！

附属図書館では、東京学芸大学の教職員・学生の皆様への広報活動の一環として、「附属図書館メールニュース」を刊行しています。

「附属図書館メールニュース」を購読されますと、ホームページにアクセスすることなく、新サービスについての情報などをいち早く得ることができます。また、附属図書館の活動内容の報告などもしていきたいと考えています。

まだご購読いただいていない方は、図書館ホームページの「利用者サービス ＞ メールニュース」のページから購読手続きができますので、ぜひお申込みください。

- 原則として申込みは、本学の教職員・学生に限らせていただいています。申し込みは学内（小金井地区）の端末からのみ、行うことができます。
- メールニュースの刊行は不定期です。1か月に2回以上の刊行をめざしています。
- 購読を中止したい場合には、その旨お知らせいただければ、配信先リストから削除いたします。

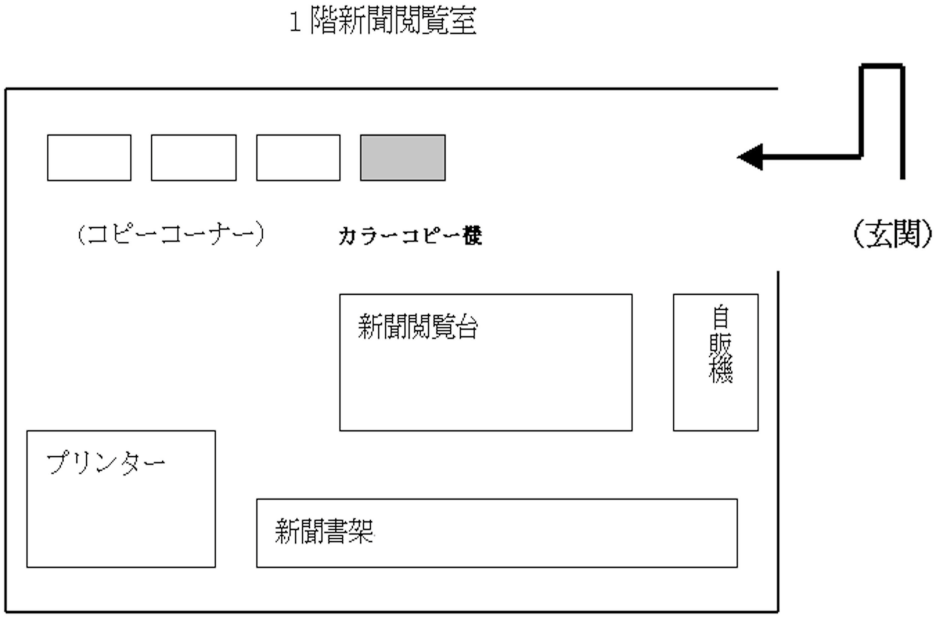
カラーコピー機を設置しました

図書館1F新聞閲覧室に、カラーコピー機を設置しました。
コピーカード専用（生協で販売）で、1枚につき5度数です。

利用はモノクロコピー機と同様に、図書館資料の複写に限ります。備付けの文献複写申込書に記入し、著作権法の範囲内でご利用ください。

紙詰まり・トナー交換等トラブルは、生協（内線5171）へ連絡してください。
領収証の発行・図書館内でのコピーカードの販売はしていません。また、私費のみの利用となりますので、ご承知ください。

＊モノクロコピー機としても利用できますが、混雑時はモノクロでの多量の利用を控えるなど、良識ある利用をお願いします。



ノートパソコン貸出案内

図書館には現在，合計30台の館内貸出用ノートパソコンがあり，平日，利用者に貸出しをしています。

Microsoft Officeやブラウザなどの基本的なソフトが搭載されていて，無線LANを利用して，すぐにインターネットに接続できます。

ノートパソコンを利用することで，当館の所蔵する資料だけでなく，インターネット上の情報を収集しながら，レポートや論文を作成していくことができます。

利用規則・方法

・目的

学習・学術的な利用に限ります。

・場所

図書館内で利用してください。

・対象者

本学学生が対象です。

・手続

２階カウンターで申込用紙に記入し，学生証とともに係員に渡してください。

・時間

平日 9：00～12：00, 13：00～17：00

17：00にカウンターが閉まりますので，遅れないように返却してください。

・弁償

ノートパソコンを亡失，損傷したときは弁償していただくことがあります。

館内貸出用ノートパソコン　○できること　×できないこと

○できること

・インターネットの利用

ノートパソコンは無線LANでインターネットに接続可能です。

★無線LANに接続するときには，情報処理センターが利用登録者に発行したユーザ名とパスワードが必要です。

・各種ソフトウェアの利用

Microsoft Office XP Professional（Word, Excel, PowerPoint, Access）が利用可能です。

・フロッピーディスクへの保存

・CD-ROM及びCD-R/RWの利用

CD-ROM、CD-R/RWドライブが利用できます。ご希望の方は係員にお申し出ください。

×できないこと

・印刷

・ハードディスクへの保存

不明な点がありましたら，図書館２階カウンターまでお尋ねください。

平成１４年度図書館暦（1月～3月）

日	1　月		2　月		3　月		日
1	水	元旦：年始休館	土		土		1
2	木	年始休館	日		日		2
3	金	年始休館	月		月		3
4	土	休館	火		火		4
5	日	休館	水		水		5
6	月	授業再開・延長再開	木		木		6
7	火		金	後期授業終了	金	教育実習終了・延長終了	7
8	水		土		土	休館	8
9	木		日		日	休館	9
10	金		月	教育実習開始～3/7	月		10
11	土		火	建国記念の日	火	短縮開館：13：00まで	11
12	日		水		水	休館：東京学芸大学入試（後期）	12
13	月	成人の日	木		木		13
14	火		金		金		14
15	水		土		土	休館	15
16	木		日		日	休館	16
17	金	休館：センター試験準備	月		月		17
18	土	休館：大学入試センター試験	火		火		18
19	日		水		水		19
20	月		木		木		20
21	火		金		金	休館：春分の日	21
22	水		土		土	休館	22
23	木		日		日	休館	23
24	金		月	短縮開館：13：00まで	月		24
25	土		火	休館：東京学芸大学入試（前期）	火		25
26	日		水	休館：館内整理日	水	休館：館内整理日	26
27	月		木		木		27
28	火		金		金		28
29	水	休館：館内整理日			土	休館	29
30	木				日	休館	30
31	金				月		31

＊臨時休館日については、その都度掲示します。

授業期　平日（月～金） 開館時間　9:00～22:00	授業期　土・日・休日 開館時間10:30～16:30	休業期　平日（月～金） 開館時間 9:00～17:00

編集発行　東京学芸大学附属図書館
〒184-8501　東京都小金井市貫井北町 4-1-1
電話　042-329-7223　　FAX　042-329-7226
URL　http://library.u-gakugei.ac.jp/

再生紙 70%を使用しています